

5. 事業報告

◆個人貸出サービス

<貸出室・一般図書コーナー>

平成 24 年度の成人書の個人貸出冊数は 1,994,809 冊（対前年度比 3.1%減）、14 歳以上の個人貸出人数は 810,197 人（2%減）となり、23 年度同様減少傾向にある。年齢別の利用を見るとどの館も 15～39 歳の利用の減少が顕著である。

館別で見ると個人貸出冊数がほとんどの館で減少しているなか、動く図書館といぶき図書室では微増となっている。

貸出冊数・人数が減少した主な要因として、インターネットで必要な資料を予約して受け取るだけの利用がさらに増加傾向にあり、本棚を眺めて追加で借りていく利用が減っていることがあげられる。統計に反映されない継続貸出が増加しており（5.9%増）、自宅からインターネットを通じて継続手続きが出来るため、来館の機会も減少していると思われる。また資料費が増えない中で、利用者の多様なニーズに応えきれていないことも要因の一つである。さらに、社会全般の動きとしてスマートフォン・タブレット端末の利用時間が増加していることや、電子書籍への移行などの影響もあると思われる。公共図書館の全国的な状況として、『日本の図書館 2012』（25 年 2 月発行）によると、23 年度初めて貸出冊数が減少に転じたことが報告されている。

資料種別では、CD・雑誌の貸出件数の減少が続いている。音楽はインターネットでダウンロードして入手することが一般的になってきていること、CD・雑誌の購入数が増えていないことも影響していると考えられる。

24 年度の個人予約件数は 699,456 件（1.5%増）であった。なかでも Web 予約は 464,022 件（3.6%増）で年々増加傾向にある。携帯サイトからの予約が 14,059 件（14.8%減）となっているのは、貸出同様スマートフォン・タブレット端末の普及によるものと思われる。

今後も、利用者の求める資料を迅速に提供し、館内の棚づくりや書架表示・展示などを充実させることで、来館の際、利用者にとって新たな発見があり、魅力が感じられるよう環境整備や発信に努める。また、今後システムリプレイス等の機会をとらえて、Web サービスの充実や電子書籍等のデジタルコンテンツの収集と提供も検討していく必要がある。

<ヤングアダルト（YA）サービス>

図書館では、以前より主に学校図書館との連携や団体貸出サービスを通して YA 世代（ここでは概ね 12 歳から 18 歳くらいの若者）へのサービスを行ってきたが、千里図書館リニューアルを機に、YA コーナーを設置し本格的なサービスへと取り組み始めた。千里に続き、高川、東豊中、岡町、庄内と図書館全体へ広がりつつある。平成 24 年度には YA サービス担当者会議を行い、今後のサービス展開について各館の課題を共有した。

全館の YA 資料は、23 年度の 7,050 冊から 7,869 冊へ約 11%増加している。YA コーナーでは図書資料だけでなく、ミニコミ誌やパンフレットも収集しており、豊中市内の高等学校から取り寄せた学校案内にも多くの関心が寄せられた。千里図書館発行「YA! BOOKS 通信」は 10 号を刊行し、24 年には Web サイトでの公開も行うなど、継続した情報発信を行っている。

24 年度は、「学校図書館大集合！」と題して近隣の学校図書館の様子を紹介する企画や、学校の授業や部活動の成果の展示、文化祭での図書館の PR など、中学校、高等学校と連携した取り組みが実施された。中学・高校生による地域での読み聞かせや、職業体験学習の中学生による本の

紹介なども、毎年実施している。

学校図書館紹介	学校図書館大集合！（千里・東豊中）、学校図書館ポスター展（野畑）、学校図書館の活動紹介と生徒の作品展（蛍池）
図書館での展示	豊中高等学校の生徒作成絵本紹介POP巡回展示（岡町・千里・東豊中・服部・庄内・東豊中）、十六中調べ学習（服部）、九中書道部（千里）、刀根山高等学校の生徒によるおすすめ本紹介（蛍池）
読み聞かせの活動	紙芝居ボランティアによる読み聞かせ（高川・千里）、高校生・大学生のボランティア講座（岡町）
授業への講師派遣	豊中高等学校 1 年生家庭科（岡町）、職業体験事前指導（五中：岡町、十八中：蛍池）

YAサービスの取り組みは年々充実しているが、年齢別の貸出人数の推移を見ると、12～14歳は前年比で3%増加しているものの、15～17歳は8%減少、18～21歳では13%減少となっており、高校生、大学生の貸出が減っている。館によって状況は異なるが、駅や校区内の学校から遠い館や開館時間が限られている館では、学校の行事や部活動で忙しい中高生が利用しやすい環境とは言えない。スマートフォンやタブレット端末の普及による読書環境の変化なども利用減少に影響していると思われる。一方で、高校生の閲覧のみの利用や、ロビーでくつろぐグループなど、居場所としての図書館へのニーズも見受けられる。

今後は、各図書館のYAコーナーをターゲット層にPRしていくとともに、居場所づくりなど貸出だけではない利用の拡大も検討していきたい。

YAサービスでは18才までを対象と捉えているが、その上の世代を対象として、成人式が千里地域で開催されたのに合わせて、調べ方ガイド「20歳のあなたへ」を配布し、新成人向けの図書館PRポスターを千里コラボ2階ロビーに掲示した。

<こども室・児童書コーナー>

平成24年度の児童書の貸出冊数は1,035,753冊（対前年度比0.2%増）、そのうち個人貸出冊数は938,128冊（1.2%減）であった。個人の利用は減少しているが児童書全体の貸出は伸びており、団体貸出を通して子どもに本を届ける機会が増えていると考えられる。14歳以下の貸出人数は157,225人（1.6%減）で、23年度の前年比6.5%減よりも緩やかになったものの2年続けての減少となった。

子ども読書活動推進計画の進捗にともない、関係機関と連携しながら、乳幼児期からの連続したサービスに取り組んできた。ブックスタート事業「えほんはじめまして」は23年から絵本のプレゼントが始まり、フォロー事業の「すくすく赤ちゃんタイム」や「えほんにたっち」も例年好評である。24年度は歯科衛生士との連携による「食育コラボ～みんなでは・は・は」を4館で実施した。乳幼児を対象としたおはなし会は各館盛況で、乳幼児向けサービスでは一定の成果をあげている。

絵本の出前講座は、図書館職員が講師となり、子どもの読書の大切さについて理解を深めてもらうことや、図書館が行う子育て支援活動の一環として実施しており、子ども読書活動推進計画の取組みの一つに位置付けている。子育て支援センターや保育所（園）、幼稚園、子育てサロン、子育てサークル、学校、公民館などで実施している。乳幼児とその保護者を対象に絵本の楽しさや大切さについて話し、おはなし会を行うこともある。また読み聞かせボランティアや中学・高校生、学校の教員を対象に、読み聞かせの方法やその意義などをテーマとして講座を行っている。保育士や主任児童委員などを含む、地域で子どもに関わる大人に絵本の大切さを伝える機会となっている。

学校との連携では、小学校3年生の図書館見学「ようこそ図書館へ」、中学生の職場体験学習（CUL）の受け入れのほか、学校図書館を通しての資料提供、レファレンスや調べ学習の支援などのサービスを行っている。24年度は、新たに学校図書館支援として整備した資料の中から、図鑑セット18件、調べ学習サポートパック13件、教職員向け資料1,407冊が利用された。ブックプラネット事業の進捗に伴い、学校図書館との連携・協力をさらに進めるとともに、夏休みや土日など小学生が参加しやすい時間に合わせておはなし会を実施するなど、直接来館サービスもPRしていきたい。

※ブックスタート事業「えほんはじめまして」は4ページ、調べ学習サポートパックは5ページのトピックス参照

◆団体貸出サービス

学校、放課後こどもクラブ、幼稚園、保育所（園）、子ども文庫およびおはなしボランティアグループ、高齢者施設、読書会等自主的な活動グループに資料の団体貸出を行っている。

<学校図書館>

平成24年度の小・中学校図書館への貸出冊数は43,800冊（他に継続貸出11,111冊）となった。21年度からは、要望に応じ1学期ごとに上限50冊の長期貸出を行っている。

毎年、学校図書館と公共図書館司書との地域館交流会を行っているが、24年度より交流会の回数を年2回に増やし、学校図書館を会場として実施した地域もあった。1回目で公共図書館と学校図書館の連携が深まるようにアイデアを出し合い、2回目で実践した。具体例としては「学校図書館大集合！」と題し小学校から高校までの学校の紹介展示などを、千里・蛍池図書館で行った。

公共図書館からの支援サービスについては、「とよなかブックプラネット事業」の進捗と、庄内幸町図書館の「学校支援ライブラリー」活用にあわせて、児童・生徒の読書活動を支援するとともに、調べ学習等の授業への資料提供を行っている。

<放課後こどもクラブ・幼稚園・保育所(園)等>

24年度の放課後こどもクラブの24年度の貸出冊数は13,218冊。小学校全校に配本している。また、蛍池人権まちづくりセンター、豊中人権まちづくりセンター児童館に対しても、行事や組みに必要なテーマの資料を貸出している。

保育所（園）の貸出冊数は28,274冊、幼稚園は2,905冊。教諭・保育士からの相談応じ、行事やテーマに則した資料の提供、お散歩来館時にも貸出を行っている。24年度も私立幼稚園教諭・民間保育園保育士向けの絵本講座を開催した。子ども読書活動推進計画の進捗にとともに、幼稚園・保育所（園）現場でも読書に対する意識が高まり、講座への参加につながっている。

<子ども文庫>

24年4月現在、13の子ども文庫があり、「豊中子ども文庫連絡会（豊子連）」加入は10文庫。それぞれの地域で子どもに本を手渡し、長年にわたって子どもの育ちを見守る活動が続けられている。子どもの身近な居場所として、また子どもを取りまく大人の交流の場として地域に根付いている。図書館からは、文庫活動を支援するために、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供している。24年度は4,725冊の貸出があった。毎年、子どもと本のまつり・子どもと本のつどいを共催で行っている。

＜おはなしボランティア＞

豊中紙芝居の会、千里ストーリーテリングの会、野畑おはなしの会、おはなしたまたまばこ、お話探検隊など、市内で約 40 のグループが各小学校への読み聞かせを中心に活動している。なかでも図書館主催のおはなしボランティア講座修了者で結成されたグループ「おはなしボランティア ポケット」は、約 90 名のメンバーで構成され、活動の幅を拡げている。図書館では、おはなし会に用いる絵本の貸出や資料相談を行い、活動に関する様々な相談にも応えている。

24 年度の読み聞かせのボランティアグループへの貸出冊数は 16,925 冊となっている。今後も資料・情報を提供し、フォローアップ講座の開催など活動の支援を継続していきたい。

＜高齢者・福祉施設＞

高齢者施設・福祉施設への貸出は年々増加しており、24 年度は 67 団体に 9,761 冊貸出した。

高齢者人口の増加にともない高齢者施設が増加し、図書館利用への需要も増えており、各館で団体貸出を行っている。

発達支援センターなどの福祉施設へは、岡町図書館、動く図書館による配本・巡回サービス、および各館で来館者へのサービスを実施している。

今後も各施設と連携しながら、需要に合わせたサービスのあり方を探っていく。

◆動く図書館による巡回サービス

＜一般ステーション＞

図書館から遠く離れた地域の市民に、動く図書館「とよ 1 ぶっくる」が約 3,200 点の資料を積んで市内を巡回し、貸出を行っている。現在は 18 ヶ所を約 4 週間に 1 回巡回している。

平成 24 年度、動く図書館の年間貸出人数は 7,563 人、年間貸出冊数は 72,818 冊。貸出人数・貸出冊数ともに 23 年度と比べ、ほぼ横ばいとなっている。巡回先である社宅やマンションは、転入・転出者が多いため、今後も広報に力を入れていきたい。

地域教育振興室主催の地域子ども教室カーニバルに「とよ 1 ぶっくるがやってきた！」として 24 年度も出張巡回を行い、好評を得た。

＜施設ステーション＞

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、動く図書館「とよ 1 ぶっくる」が巡回している。24 年 4 月現在、支援学校 2 ヶ所・児童発達支援センター 2 ヶ所、市立保育所 3 ヶ所、民間保育園 3 ヶ所へ約 4 週間に 1 回巡回している（うち民間保育園 1 ヶ所については、駐車場工事のため 24 年 10 月より巡回を一時休止中）。

支援学校・児童発達支援センターでは、おはなしボランティアグループに依頼し「おはなし会がやってきた！」を 4 ヶ所で全 7 回実施、保育所（園）5 ヶ所では卒園するクラスを対象に、図書館職員によるおはなし会を実施した。

◆図書室

いぶき図書室には約 7,000 冊の資料があり、週 2 回、水曜日と土曜日の午後 1 時から 5 時まで開室している。また第 1・第 2 水曜日にボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。平成 24 年度の貸出冊数は 26,234 冊で 23 年度よりやや増加している。

20 年 12 月に豊島西小学校内に開室したバス図書室は車内に約 2,000 冊の資料を備え、週 1

回、日曜日の午後 2 時から 4 時まで開室している。車両更新にともない廃車となった動く図書館車を図書館から離れた地域の小学校校内に設置し、図書室として活用している。24 年度の貸出冊数は 812 冊であった。引き続き定期的な蔵書の入れ替えや P R を行っていく。

◆レファレンスサービス

調査・研究・読書相談・日常における疑問などについて、資料・情報の提供や関連機関の紹介などの業務がレファレンスサービスである。豊中市立図書館では昭和 44 年から参考室を設け、当時から専任の職員を配置してサービスを行ってきた。来館や電話による相談に加え、現在ではインターネットによる e レファレンスや、F A X による受付も実施している。

調査・研究のための資料・情報提供のレファレンスをはじめとする総件数が、24 年度は 87,867 件（対前年度比約 8.6%増）となった。

国立国会図書館のレファレンス協同データベースを活用しながら、レファレンス事例の蓄積も進めている。また、調べ方ガイド「検索ナビ」の作成や更新などを継続的に行っている。

今後も、さらにレファレンスサービスの市民への周知、利用増加を目指して図書館の W e b サイト、チラシ等で P R を図っていく。

※レファレンス協同データベースについては 6 ページのトピックス参照

◆行政へのサービスと連携

庁内 L A N をつかった市職員向けの「庁内仕事応援サイト」は、行政向けのサービスとして 2 年目を迎えた。このサイトは行財政再建対策室、職員研修所、情報政策室と図書館の 4 課のコラボレーションという新しい試みで開設し、運営を行っている。平成 24 年度は庁内 L A N の電子掲示板からテーマ別新着リストの画面に、直接アクセスできるようになり、より一層の活用が望まれる。25 年 3 月の時点でトップページ、トヨタター（みんなの情報掲示板）、テーマ別新着リストなどへの主なアクセス件数は 9,655 件である。

また、庁内へのレファレンスサービス件数は 40 件であった。

新規採用職員、新任係長等の研修時には、このサイトの P R やレファレンスの活用とともに、図書館が行っている広告事業についてもチラシを配布し、アナウンスを行った。

このほか、トヨタターにおいては、『るるぶ豊中』に掲載するため「豊中の良いところ」についてさまざまな意見が寄せられ、本作成に参加することができた。

◆特集展示

平成 24 年度は「暮らしの課題解決」各分野の資料の各館巡回展示を行った。テーマについては以下のとおり。

食育・食の安全	薬	メタボリックシンドローム
共に暮らす 国際交流	外国人が日本で暮らす	いろいろな国のことばで読む
起業 お店はじめます	ものづくりの知恵	まもる・たすける・ささえる 頼れるビジネス文書
こどもの声が聞こえますか	フレ－！フレ－！ おかあさん 1 年生	D V ってなに？ どうしたらいいの？

その他季節や時事問題を取り上げて、各館で展示を行っている。

特に「こころと身体を守る」をテーマにした資料の展示は、大きな社会問題となっている自殺を予防する観点から、図書館に出来る取組みとして順次実施した。

◆資料の収集と保存

市内全館の資料の選書は、職員で構成する選書委員会が毎1回行う。収集の基本方針に基づいて、生涯学習を支えるため市民の要望及び社会の動向に配慮し、教養・調査研究・レクリエーション・ビジネス・日常の生活に役立つ資料を収集している。資料費増額が困難な状況が続いているが、府立図書館や他市の図書館との相互貸借制度も活用しつつ、市民に多様な資料を提供していきたい。

平成24年度は、23年度に引き続いて「暮らしの課題解決」支援サービスに関わる資料の整備に取り組んだ。収集方針についての問い合わせも多く、改めて図書館Webサイトで公開した。

保存のための書庫スペースに限りのある中で、豊中市立図書館の蔵書の構築および保存に努めていくことが課題である。

◆障害者サービス

身体上の都合で来館できない市民に、郵送・宅配により資料を貸出している。

視覚に障害のある方には、録音図書（音訳図書※やデージー図書※）・点訳図書を収集・貸出し、対面朗読を実施。岡町・千里・野畑・高川図書館には、拡大読書器を設置するとともに、大活字本は全館で提供している。

耳の不自由な方には、手話・筆談等による対応を行い、千里、蛍池図書館には、補聴器用の磁気ループ※を設置している。

録音図書、点訳図書の作成や対面朗読サービスは、ボランティアグループの協力を得て行っており、その活動を支援する音訳ボランティアフォローアップ研修講座なども実施している。

平成24年度も、日本図書館協会と国立国会図書館関西館主催の「障害者サービス担当職員向け講座」を職員が受講。実習館としても協力し、3名を受け入れた。

4か月児健診時に行うブックスタート事業「えほんはじめまして」に目の不自由な保護者が来られ、点訳ボランティアの協力のもと、点字付き絵本を2件提供。今後も個々の状況に応じて、きめ細やかな対応を行う。また高齢人口の増加、点訳・音訳資料のメディアの変化が進む中、障害者サービスも多様化している。情報格差を解消し、多様な情報提供を行うために、他部局との連携はもちろんのこと、近隣の自治体やボランティアグループとの協力が必要となっている。お互いに気軽に相談できる関係を築けるよう、日頃から情報や意見の交換を行い、交流を深めていきたい。

※音訳図書＝目の不自由な方、活字による読書が困難な方のためにカセットテープに録音したもの

※デージー図書＝CD-ROMに音声情報を記録したもの

※磁気ループ＝マイクを通した明瞭な音声を聞くためのシステム

◆多文化サービス

平成 24 年度は、庄内図書館の多文化共生コーナーの資料として、インドネシア語、英語の成人書を中心に購入した。中国、韓国、ブラジル、フィリピン、台湾、ベトナム、スペインの成人書、その他外国語の絵本などと合わせて、約 1,700 冊となった。全館で巡回展示を行い、外国語の資料や外国人の生活支援の資料の PR をおこなった。また、とよなか国際交流センターに定期的に団体貸出を始めた。

岡町図書館こども室の「世界のこどもの本の部屋」では、日本語以外の言語を母語とする児童への資料提供のため、世界の各言語で書かれた子どもの本を収集し、貸出している。現在、蔵書数は約 8,000 冊である。24 年度は小学校から要望の多かったスペイン語の絵本などを購入した。

言語別の資料リストや調べ方ガイド「検索ナビ」（「国際交流」と「外国人のための生活ガイド」）を作成・配布し、図書館 Web サイトにも掲載している。

岡町・庄内図書館に引き続き、とよなか国際交流センターのボランティアグループが中心となり、24 年度は新たに千里図書館で「せんりおやこでにほんご」が始まった。外国人親子の日本語学習や情報交換の場となっている。また、千里コラボで毎月行われている「多文化カフェ」は、外国人や外国に滞在した経験のある市民をゲストに招いて、現地の様子や文化を知り学び合う市民主催事業であり、千里図書館から資料の提供をおこなっている。

今後も関係部局と連携を深めながら、豊中で暮らす外国人やその周囲の人々へ PR を行い、資料・情報の提供に努めていきたい。

◆人権に関する取組み

市民向けの取組みとしては、各種資料展示や、人権講演会、パネル展を実施している。また、図書館の職員が人権について理解を深め、業務を通じて啓発につなげるため、年 3 回の研修を行っている。

● 市民向け人権講演会・資料展示・パネル展

- ・講演会「こどもの心 親の心」講師：豊中市教育委員会人権教育室 橋本直樹さん
- ・講演会「ストレス社会のこころの健康～うつ病・自殺予防」
講師：豊中市健康福祉部 上田勲さん
- ・世界のバリアフリー絵本展と講演会「つながろう、えほん・こども・おとな」
講師：「しいの実学園」元保育士 湊暁美さん（共催：豊子連）
- ・講演会「震災から地域力を考える」大阪大学大学院 渥美公秀さん
（共催：蛍池公民館・蛍池人権まちづくりセンター）
- ・資料展示 平和・人権月間に関する展示や自殺予防など
- ・パネル展示 震災を考えるパネル展・ユニセフパネル展

● 全体職員研修

- ・「人と人とのつながりー共生・共育・共学」講師：福祉事務所職員
- ・ビデオ「パワーハラスメント」の視聴とグループ討論
- ・東日本大震災の現場から～震災ボランティアに参加してみて」報告：図書館職員

◆研修

平成 24 年度の研修は、「とよなかブックプラネット事業」の進捗に合わせて、連携・支援を担う公共図書館の職員にとって必要な、学校図書館機能に関する研修受講に力を入れた。さらに、地域に根差す公共図書館のあり方、図書館システムリプレイスに向けた視察・研究などに重点を置いた。その他、人権、ホスピタリティやクレーム対応、「暮らしの課題解決」支援サービスに関連して、多文化、男女共同参画、子育て・子育てに関わるテーマの研修を受講した。「協働」「レファレンス」「障害者サービス」「自治体間連携」「地域のネットワークと地域資料のデジタル化」などのテーマについては、研修を企画して実施したほか、職員を講師として派遣したり、実習館として研修実施に協力することも行った。

子ども読書活動推進計画の事務局として、子どもと児童文化の理解につながるもの、困難を抱える若者とその保護者への対応、若年（10 代）のひとり親家庭の現状と課題などを学び、図書館サービスの向上をめざしてしている。

先進事例を参考にするため、研修資料や記録については図書館の情報共有システムで互いに共有し、業務改善へ役立てるよう努めている。

職員が受講した主な研修(1名での参加から、職場として企画した多人数の研修まで)

図書館専門研修	一般研修
「学校図書館教育研修会」 学校図書館支援システムデモ・司書教諭との交流	「支援が必要な子ども・若者に対して何ができるか？何をすべきか？」
「学校図書館～しまねの学校図書館はいま～」	「児童生徒支援チームによせられる相談とその対応について」
「学校図書館を利用した授業改善の工夫」	「大阪府教育センター教育相談室の取り組みについて」
「学校図書館を目覚めさせる」	「大阪府子どもライフサポートセンターの取り組み」
公立図書館と学校との合同研修	「子どもから地域を考える学習会（いじめ問題を考える）」
「羽曳野市における学校図書館と公立図書館との連携について」	「豊中市教育センター教育相談チームの取り組みについて」
「なぜ校内研修なのか？」	「豊中少年サポートセンターの取り組みについて」
「授業を支える学校図書館」	「若年(10代)のひとり親家庭の現状と課題」
大阪府図書館司書セミナー	「地域でできるひきこもり支援の実際」
「情報発信と図書館協力 つなぐむすぶひろがる」	「地域子育て子育て支援ネットワーク研修 地域でできる支えあ関係とは」
「つながる図書館 図書館が他の機関と連携すること」	「接遇・マナー基本研修」
「ひとづくり・まちづくりに役立つ図書館とは」	「逆差別意識の構造と教育・啓発の課題～人権問題に関する府民意識調査の結果から」（集合研修）
「視覚障害のある利用者へのアプローチについて」	「男性にとっての男女共同参画とは？」
「デジタル時代のなかの出版文化」	「障害当事者から学ぶ人権と接遇」
大子連児童文化講座	「自治体マネジメントとファシリティマネジメント」
「すべての子どもたちへ 絵本からのメッセージ」	「タイムマネジメント研修」
「小さな人々たちへの応援歌」	「政策評価ワークショップ 評価で大切なこと～指標（ものさし）の設定と考え方～」
「森が教えてくれたこと 写真家が見つめる森のいのち」	「初動要員研修」
「子どもたちに生きる力を」	「契約実務研修」

「学校図書館～しまねの学校図書館はいま～」	「新・豊中市行財政改革大綱取組み総括（案）について」
「フィリピン・ミンダナオに図書館を作った～本の力は未来を拓く～」	「クレーム対応研修」（集合研修）
その他	「東日本大震災の現場から～その経験と教訓を語り継ぐ」
「北欧の公共図書館－スウェーデンの児童サービスを中心に」	
「公共図書館と学校図書館の連携」	
「ディズニーに学ぶホスピタリティ&スタッフ育成術」	
「NDL関西館 資料デジタル化研修 デジタル化の技術と仕様及びワークショップ」	
「電子書籍導入ほか(各種) システムセミナー」	
「ＩＣを活用した新たな利用者サービスについて」	
「新聞データベース研修」	
「学習件名で資料探し」	
「図書館地区別研修近畿地区 図書館の電子化と無料原則」	
「図書館地区別研修近畿地区 これからの図書館運営」	
「図書館等職員著作権実務講習会」	
「大阪公共図書館協会参考業務実務研修」	
「府域図書館を学ぼう！」	
「障害者の読書環境について サピエ マルチメディア DISY など」	
「DAISY 図書製作研修」	
「OLA 児童サービス研修」	
「図書館における母語を日本語としない方への接遇について」	
「全国公共図書館児童青少年部門研究集会 一人ひとりに寄り添う児童サービス」	
「児童サービス基本研修」	
「図書館のYAサービスの可能性」	
「赤ちゃん絵本を読む－赤ちゃん絵本をたのしむために」	
「(国立国会図書館職員派遣による) レファレンス研修 (集合研修)」	
「協働研修」（集合研修）	
「やまんば母さんのないしょ話」	
「ヴィクトリア時代の絵本－現代の絵本の源流を求めて」	

◆集会室

図書館主催行事や会議等で使用するほか、市民グループ活動のために集会室を提供している。図書館関係団体、読書関係団体、社会教育・文化関係団体、福祉および地域振興団体、市の各局などが集会室を利用している。9館全体で2,561回、40,205人の利用があった。地域に公共施設の少ない野畑図書館や、図書館関係団体の活動の拠点となっている岡町図書館での利用が多く、地域コミュニティ活動の場として、多くの市民に利用されている。人と人が集って学び合い、交流する場としての役割を果たしていきたい。